

わっしょい! 中播磨



2008年11月

No.9

中播磨地域ビジョン情報誌

発行：中播磨地域ビジョン委員会

編集：中播磨地域ビジョン情報誌編集会議

写真提供：藤原貴吾さん

連携と交流の地域づくり

中播磨地域は、都市と農山村、臨海部と内陸部といった多様な側面を持ち、それに見合う多彩な地域資源を有しています。反面、恵まれませんすぎるあまり、それらが産業おこしや地域づくりにうまく結びついていないという指摘もあります。

中播磨地域の自然や歴史、文化等をテーマとする様々な交流を通じて、地域の魅力やアイデンティティを捉え直し、地域内外に発信する取り組みを進めていきたいと思います。

新たな中播磨の名物を体験・発見

中播磨地域ビジョン委員会の産業づくりグループは、「食」を通じて地域の歴史や文化を再認識し、新たな観光名所や地域名産など中播磨地域の「名物」を探し出して発信する取り組みを進めています。これまで、委員の家族や知人にも呼びかけ、各地で地域資源探索会を開催しました。

今年の四月には、姫路市石倉の「峯相の里」を訪問し、「味の太市」と全国的に有名なタケノコの生産地でタケノコ掘りを体験しました。また、童心に返り、広い野原で竹とんぼを飛ばしました。その後、タケノコの刺身や天ぷらなど、タケノコのフルコースを楽しみました。アンケートでは、タケノコ掘りは難しく疲れたけれど、楽しかったという意見が大半でした。

七月には、総勢六十二名で家島町坊勢島に渡りました。家島は、姫路港からわずか三十分ですが、なかなか行く機会がありません。区長さんから島の歴史などのお話しを伺った後、周辺の神社などを散策しました。その後、海水浴場の近くの公園へ移動し、新鮮な魚介類のバーベキューを楽しみました。地元的女性にさばっていたいただき、焼いて、甘辛いタレに漬けて食べるアナゴが好評でした。

産業グループでは、こうした地域資源探索会を観光コースの企画づくりや新たな料理の提案に繋げていくこととしています。



都市との交流をめざして!

神河町山田営農組合組合長 藤原 力

私たちの集落は三十五ヘクタールの水田を有しており、棚田があり遊休農地が見られるようになった昭和五十五年に山田営農組合を設立しました。

国の減反政策に沿って集団転作を行い、二分の一で米以外の作物を栽培してきました。平成四年に遊休農地を増やさない方策を検討して、姫路、神戸などの都市部からの適当な行楽距離にあること、交通の利便性などを考えて、都市部の消費者の方との交流を目指して、棚田の遊休農地を利用した「りんご」の栽培を始めました。

平成七年度から「りんご」が収穫できるようになったので、オーナー制度を導入して都市との交流を企画しました。(オーナー料金は、早生・中生の二本で二口二万円)

オーナーは、姫路や神戸の方が多く、毎年四月二十九日に『りんごの花まつり』を開催して、オーナーの家族の方々と地元住民との楽しい交流の一日を過ごしています。

りんごの品種は、早生が「夏香」で八月下旬の夏休み中に第一回目の収穫祭ができます。第二回目の収穫祭は、九月下旬に中生の「やたか」で味は上々です。

収穫祭には、オーナーの家族や友人などで賑わい、集落の人口は倍増します。消費者の方々と心を通わせ、交流型農業の「しくみ」ができ、営農組合で栽培する米などの顧客も増えてきています。(りんごのオーナーの方には地元産のお米を贈っています)



りんごの花まつり

お米などの生産に当たっては、減農薬、減化学肥料に努めて環境にやさしい農業に取り組んでいます。

今年の九月五日に穀類乾燥調整施設(ミニライスセンター)が完成したことにより、これを活用した地域の基幹作物である水稲の経営受託化に向けて特別栽培を行い、消費者ニーズに沿った無洗米など高付加価値を図り、真空パック米を販売しています。なお、兵庫認証食品「ひょうご安心ブランド」の称号を今年の九月に頂きました。

また、十月十三日から枝豆(黒豆)の道路販売を行い、集落で生産されたものを即売しております。

村づくりを第一に考えて雇用の創出を図るため、都市の消費者の方々との交流により、みんなが参加できる活気ある新しい集落を目指して行きます。

今後とも、皆さま方の更なるご支援をお願い申し上げます。

国際交流くひとつの取り組み

がんばろう日本語代表 神村 正

平成二十年は国際交流が華々しい年でした。国と国、人と人がスポーツで競い合う北京オリンピック。日本からブラジルへの移民百周年記念。まさしく国際交流そのものです。県、市、町でのホームステイの交流、国際交流協会などの主催する行事もそうです。

このような交流とは別に手作りの交流活動があります。中播磨でも四〜五グループがネットワークに組み込まれています。

私たちの所属する「がんばろう日本語」の成立は一九九九年九月。活動のきっかけは、姫路定住促進センター閉鎖後、定住難民からの要望と難民事業本部関西支部からの依頼でした。

グループの目的は、外国の人が日本で生活するのに不自由なく日本語が使える、より豊かな生活が送れるようになっていってほしいということです。まったく日本語がわからない人が「あいうえお」の文字の書き方から発音初めて言葉を覚え、使いこなすには相当時間がかかります。外国の人にとって、厳しい労働をし、やっと休日になったのに、語学の学習は大変です。

家庭では母国語を使い、日本語にないない親たちに対し、学童期の子たちはほとんど日本語を覚えます。家族の間に言葉の壁ができればはじめます。壁をなくそうとする母親たち。仕事に疲れても学習に精を出す青年たち。それは百年前に神戸からブラジルへ渡つ

た日本人の姿と同じだといえます。

現在の活動状況は、ボランティア七名。学習者は十五〜十八名です。学習者の多くはベトナムの人、それも家族の人たちです。最近中国から来た人もいます。

グループの悩みは、支援者不足と学習者の出席常ならずの人がいる点です。マンツーマン形式が望ましいのです。

学習場所は姫路市立高木総合センターです。センターのご好意で不自由なく使用させていただいています。

活動日時は、日曜日の十四〜十六時です。支援者大歓迎です。



障害者施設における後援会の役割

社会福祉法人姫路睦福社会後援会会長 田村 康隆

平成三年四月、社会福祉法人姫路睦福社会が障害者施設である「真砂園」を開園しました。平成五年に、当時真砂園の施設長をされていた古くからの友人、山口施設長から「障害のある人たちが応援するために、後援会を作ってくれないか」と依頼を受けました。私も何か社会福祉に貢献できればと考えていたとき、地域の仲間へ声をかけ、立ち上げたのが始まりです。

振り返ってみると十五年間、あっという間に過ぎ去った感じがします。この間、多くの仲間や多くの方々から後援会費を納付していただき、頭の下がる思いでいっぱいです。そして、納付を受けた会費約一四〇〇万円を法人に寄付することができました。寄付金の多くが次なる施設「朝日ノ里」の建設資金の一部として、また障害のある人たちの幸せのために使用されています。

しかし、決してお金だけの付き合いではありません。真砂園が毎年行っている地域の皆さんとのふれあい行事、「真砂の夕べ」に参加しています。この行事は、地域の皆さんと障害のある人たちが親しくふれあい、交流することにより、障害のある人たちが障害者施設に対する理解を深めることができていることに、大きな意義があると思っています。私たちを信じて後援会費を

納付して下さっている皆さまの期待に沿って、これからも日々努力を重ねていくつもりです。

施設のお話では、障害のある人たちの多くは二十四時間のケアが必要であるのに対し、現在の二施設は昼間だけのケアしかできないので、今後は夜間のケアを主に行うケアホームの建設を目指しているとのことでした。これが実現できるよう応援し、障害のある人たちも地域の中でひとりの人として幸せに暮らせるよう願っています。今後とも是非皆さんの力をお貸しください。



真砂の夕べ

地域に密着したハートフルな活動をめざして

中播磨ハートフルネット代表 澤田 芳昭

瀬戸内から県中北部の広域に亘る地に、花の回廊（オープンガーデン）をスタートさせてから三年、南エリアと北エリアで気候風土が大きく異なり、花木の咲き頃の移ろい、自生植物の違いを観察できる楽しみを味わっていたが、心温まる便り、お声をいただき、その熱い励ましを背に受けて、今春で三回目のオープンガーデンを開催できました。

会員も九十名となり、中播磨に点在するオープンガーデンナーが核となつて、楽しい笑顔の花を咲かせるコミュニティの場が各地に誕生し、地域に密着した活動へと歩みはじめました。

来園される車椅子患者へと

花の育苗事業

昨年秋より花の育苗事業を始めました。そのきっかけは、デイケアのため、病院やデイサービスセンターより、看護師と供に車椅子の患者さんがガーデンに来園され、その方たちへのお返しに、入居されている施設へ花苗を贈ろうということから始まりました。

また、幼稚園、小学校には、児童の情操教育にということも含め、今春には、五千鉢の花苗を贈り、感謝されております。

銀の馬車道プロジェクトにも参画
私どもの会の活動エリアと銀の馬車

道のエリアが、ほぼ重なっており、私どもの発行しております「オープンガーデンガイドブック」に銀の馬車道フラワーマップ（私どもで作成）を添付させていただき、オープンガーデンに来園される方にも、銀の馬車道に思いをはせていただこうと、今春より参画いたしております。



会設立三年を経過し、私どものハートフルなまちづくりも、ようやくオープンガーデンという点をベースにした活動から、地域に密着した線、面への活動へと着実に歩み始めた実感があります。

中播磨地域ビジョン 推進フォーラム

九月七日、今年度一回目の地域ビジョン推進フォーラムが開かれました。

最初に、田原直樹専門委員（兵庫県立大学教授）から、続く意見交換会の参考となるキイスピーチがありました。

意見交換会では、「ともに支え合う安心な暮らし」など、四つのテーマに分かれて、「おこす・つなぐ・いかす」という取り組みができたか、取り組みが十分でなかった地域課題や新たに地域課題となっていることがあるかといった共通のポイントで話し合いました。

全体会には井戸知事も加わり、田原専門委員のコーディネートにより意見交換会の進行役（副委員長・グループリーダー）が報告し、最後に知事からコメントをいただきました。



専門委員キイスピーチ

平成13年に地域ビジョンが策定され、その想定年次（2010～2015年）まで道半ば。本日のフォーラムの趣旨は、これまでの歩みを振り返り、今後の活動のヒントや元気をもらう機会になればということ。「夢」というのがビジョンのキーワード。「自己実現社会」をはじめ6つの夢を掲げている。夢というのは、元々は非常に個人的なもの。その感覚からは、この夢はちょっと距離があるかなという感じがする。しかし、この夢は個人の夢ではなく、地域みんなの夢であり、一人ひとりの夢が実現することによって到達する地域像を示したもの。地域ビジョンは非常に多くの人の個人的な夢を下敷きにしてできたものであるということを思い出したい。

たった一人の夢でも、実現しようと思うと色々な困難がある。しかし、まず何か行動しなければ、何も実現しない。一人の夢でもそうだが、ましてみんなの夢になると、文句を言っているだけでは何も起らない。0をいくら足しても0。誰かが何かをやる。やろうかなと思う人の背中を押してあげる。これが「おこす」。2つ目は「つなぐ」。1足す1は2になり、1足す2は3になるというふうに、足せばどんどん増えていく。少なくとも一人の力より二人の力の方が大きい。場合によっては、1足す1が2よりも大きくなる。繋がっていかないと力にならない。3つ目の「いかす」は、無いものねだりより、あるものをうまく活かすという精神。この「おこす」「つなぐ」「いかす」というのは、一人の夢を多くの人に繋いでいって、地域みんなの夢にするための思想だと思う。

「おこす・つなぐ・いかす」が、どれくらいできたのだろうか。自己実現は様々であるが、この「おこす・つなぐ・いかす」は共通している。この3つについて、うまくいったこと、逆にうまくいかなかったこと、それを出していただいて、みんなで共有する場になればと考えている。

兵庫県立大学教授 田原 直樹

全体会での報告

ともに支え合う安心な暮らし

何が大事かということから、「言葉かけ」が話題になった。「お疲れさまでした」とか、「ありがとうございます」とか、色々な言葉をこちらからかけていく。その際、同じ目線に立って接するということが大切であると。協働して取り組む、つなぐという活動はどうするのかということでは、情報のネットワークづくりが大事。グループづくりとか、交流の場を広げていくとか、目的意識を持った方々と物事を共有化していくという意見が出た。

ふれあい・生きがいの場づくり

「おこす」ということで、夢前町の鐘づくりの話があった。一五名ほどのグループがボール紙で鐘を作ってみようじゃないかという話になり、次は置塩城祭で鐘を着て武者行列。お城祭でも武者行列。また、三木氏や武田氏との交流で「つなぐ」ことができたし、大阪の真田幸村の地元の方と交流もされた。年齢は年と共に若くならないから、どういふふうに継続していくのかというところに課題があるという意見が出ていた。

大人が大人に成長するには

私たちに続く次の世代が、人格、能力において、現在の水準よりも低いようでは、大人には未来がなく、子どもにとっては、夢と希望がもてないでしょう。

私には、わかっていたようでわかっていなかったことがあります。それは、自分の子どもは、親が育てている。また、育ててきたものと思っただけ。が、子どもは、朝、家から一歩外へ出ると、帰るまで、人様と関わり、人様に育てられ、一日を過ごしています。一人前の社会人になってからは、やはり、社会の人々によって指導や影響を受け、日々成長しています。

子どもは、まわりの大人によって育てられ、またまわりの大人も、それに関わることによって、ともに成長していきます。

大人は、はじめから大人になったのではなく、子どもを育てるという体験を通して、子どもとともに、子どもの歩みにあわせて、大人が大人となっていくます。

価値観の変化が激しい現代社会で大人は、人様の子どもののかかわり方やスキルがわからなくなり、子どもとの付き合いができない大人になってしまいました。

子どもは、社会を幸福にする玉です。今、求められている大人の責務は、子どもたちを大切に育てられる「大人の大人づくり」ではないでしょうか。

（編集会議メンバー）

知事総括コメント



言葉の問題を強く取り上げられました。「言葉かけ」とともに、言葉の内容も重要。それによって、みんながパワーや共通認識・共通目標を持てるかという非常に難しい。私は、「将来の基本目標は？」と聞かれて、「元気で安全安心な兵庫づくりです」と言って、「漠然として分からない」と聞き返されている。次に「交流」「元気」「生活の質」「家庭と地域」

の四つのキーワードを言うが、「兵庫でなくても通用する」と言われかねない。しかし、少なくともそういうような共通目標を持たないといけない。共通認識をどういうふうにつか、方向性をどう形作っていくかということ、これが活動の原点になるのではないかとご指摘されたのだと思います。

鎧づくりは、地域性と歴史性に富んだテーマを見つけられ、それにみんなが集まって来られたということの例だと思う。自分が暮らしている所は、何を資源として持っているのか、何が活かせるのか、これが非常に大事。「共生」、「共に生きる」と言うが、共に生きるというのはお互いが認め合えるから。「共に生きる」ということは、相手にとってもメリットがあるような生き方ができる地域の問題。地域としての個性をどう発揮するかというのを見つけ出し、それを活かしていくことによって、発信できるのではないかと思います。

ゴミという生活していく上で一番大切なことを触れられました。私が提案しているのは代替措置。ゴミや炭酸ガスを出すことは、減量はできても、全部減らすのは無理。例えば、一日に千円分の消費して千円分の植林をすれば、自分の炭酸ガスを吸収してくれるという代替措置になる。これも参加の新しい土俵作りに繋がっている。そういう意味で、イベントというものを通じて参加を促すことも必要だし、何か新しい、みんなが感心を持って参加するような新しい土俵を作り上げていく努力も必要ではないかなと聞かせていただきました。

交流によって新しい繋がりができてくると言われました。その交流には種がいる。「銀の馬車道」というような、地域の歴史を交流の種にされています。地域というのは、何か種を持っている。この前、船場川の西側の地域の皆さんとトークをする機会があった。あそこは非常に城下町の商家の雰囲気が残っていて、それをどう活かしていくかという人たちが集まっている。そういう活動は、交流の種になる。こういうのを上手く見つけられないかなという努力が必要なのではないかなとも思いました。

美しい環境しほり

大量消費社会では、ゴミも多量に出る仕組みになっている。地元の活動としては、大きな目標を掲げるのは厳しいので、やり易いことから進めているという意見があった。粘り強く活動することによって、誰かがバトンを繋いでもらえたら良いと。継続は力。定期的に月に何回か活動することが非常に大事で、それにより地域の方から認められるという意見もあった。生活に深く関わるゴミをどうにかするには、一人ひとりの心を高めていく問題ではないかという意見も出た。

地域の魅力しほり

人と人の繋がりは、普段のお付き合いが大切だということから、縁の下の力持ちで頑張ってもらっている消防団の方など、お互いの色んな立場を分かり合いながら、みんなが活躍できるような場を作っていくことが大事ではないかと思っただ。銀の馬車道沿線を色々歩いてみたが、まだまだ使える資源はある。交流というものによって、色々な人の繋がりがや人の輪ができていくと、生きがいというものがある、その地域に改めて印象づけられるのではないかとことも感じた。



H11年度 (1999)	12年度 (2000)	13年度 (2001)	14年度 (2002)	15年度 (2003)	16年度 (2004)	17年度 (2005)	18年度 (2006)	19年度 (2007)	20年度 (2008)	21年度 (2009)	22~27年度 (2010~15)		
西播磨 地域夢21委員会		第1期地域 ビジョン委員会			第2期地域ビジョン委員会			第3期地域 ビジョン委員会		第4期地域 ビジョン委員会			
地域夢会議		県民行動プログラムの検討 →実践 ①自己実現分科会 →ネットワーク部会 ②人の輪分科会 →拠点づくり部会 ③安全安心分科会 →コミュニティ部会 ④環境分科会 →環境部会 ⑤祭都・光都分科会 →まちの魅力部会			実践活動の提案による プロジェクトごとの活動 ①いきいきワクワク ②夢21倶楽部 ③夢サロン ④ふれあいの場づくり ⑤高齢者の体力測定 ⑥子育て応援団 ⑦はりま水緑隊 ⑧ゴミ減量化コンセン サス会議 ⑨中播磨マップ部会			県民行動プロ グラムの検討 ①コミュニティ ②健康 ③青少年育成 ④福祉 ⑤安全安心 ⑥自然環境 ⑦生活環境 ⑧地域づくり ⑨産業		第2次プログラムに掲げる 行動モデルの実践		ビジョンの 想定年次	
◎地域ビジョン策定		◎地域ビジョン推進プログラム策定			◎第2次地域ビジョン推進 プログラム策定				取り組みを振り返り、 課題を考え、 新たな地域を描く				

「近代化遺産を探る道」はさらに伸びる

歴史街道「銀の馬車道」でつなぐ人と文化グループ 宮永 時子

銀の馬車道沿線の市町を訪ね、各地の方々と馬車道やその時代を探りながら、埋もれていた地域独自の歴史や文化を掘り起こす。それが接点となって人の繋がりが生まれ、地域との交流へと拡がり、そして活性化へのきっかけとなる。これが私たちの願いであり、取り組みの目的です。

今年度は、四月に姫路城外濠の馬車道を歩くことで始めましたが、各地で馬車道への関心も徐々に高まり、「馬車道の話」を聞いていただく機会も多くなりました。神河町公民館ゼミや生野町公民館講座、福崎町文化協会や中播磨地域活動委員会の研修会などで、たくさんのお会いと交流が生まれました。神崎中学校でも地域学習の教材として取り上げられるなど、関心の輪も一層広がってきたようで、「銀の馬車道交流館」へも随分広い範囲からお見えになるようです。

七月二十四日、銀の馬車道ネットワーク協議会が実施する「鉱石の道を訪ねるバス見学会」に、私たち九名の委員が参加しました。一行(総勢三十名)は、先ず養父市の明延鉱山を訪ねました。明延鉱山は、生野銀山より六十年も歴史が古く、「日本一のスズ鉱山」として知られる一方で、その産出銅が奈良東大寺の建立時に大仏の鑄造に使われたとも伝えられています。奥深い山峡の



神子畑の鑄鉄橋を渡る

道筋に開かれ、採鉱当時のままで遺された探検坑道の中を、ガイドの持つライトに導かれた約一時間の見学でした。昼食は「あけのべ自然学校」の鉱山弁当をいただき、続いて朝来市の神子畑鉱山へと宍粟市廻りで移動しました。神子畑での採鉱は大正時代中頃に休止されましたが、その後、大規模な選鉱場が建設され、明延鉱山で採掘された鉱石が運ばれて、その施設は東洋一と謳われたそうです。

明治の中頃、神子畑・生野間に馬車鉄道が建設され、鑄鉄橋なども架けられました。これらの近代化遺跡群が現在「鉱石の道」と呼ばれ、「銀の馬車道」に続く探訪のルートとしての活用が期待されています。

地元の熱意に守られる沿線各駅

地域一体となった防犯への取り組みグループリーダー 古田 昌

痛ましい事件や事故を未然に防ぎ、安全で安心して暮らせる町を実現するためには、私たち一人ひとりの防犯意識を高めるとともに、地域一体となった取り組みが大切です。私たちのグループは、無人駅の現状調査、駅を利用する方々や駅周辺への聞き取り調査等を継続して行うことにより、防犯上の課題を明らかにし、地域の人たちと協働で対応策に取り組むことにしています。

四月二十六日、播但線の新野駅と鶴居駅を再び視察しました。新野駅は花壇の手入れが行き届いていました。駐輪場が駅から離れており、放置自転車が多かったです。駅前に民家が少なく、夜間の女性の一人歩きは危険です。鶴居駅は外壁塗装を直し、ベンチも新しくなっていました。夏になると駅構内でたむろする若者がいるとのこと、やはり夜間の女性の一人歩きは危険です。両駅とも防犯カメラは設置されています。

地元の人のお話によると、過去には高校生たちの非行がありました。学校当局、生徒の自浄努力、駅周辺住民の連携により落ち着いた環境を取り戻した経緯があるとのことでした。今年三月十五日には、「はりま勝原駅」の開業セレモニーを見学し、同時に駅構内や周辺を視察しました。



播但線・新野駅にて

バリアフリーに考慮されており、安全性重視が窺えました。八月二十二日、五月月経った新駅を再訪し、実態調査と乗降客への聞き取り調査を行いました。駅前周辺の整備はかなり進んでいますが、通りに入ると明かりが乏しくなっています。駐輪場での自転車タイヤのパンクやガラス破損のいたずらはあるが、大きな事件はないとのこと。放置自転車やごみのポイ捨てはなく、地域の人たちが花壇の手入れをされています。

播但線の新野駅・鶴居駅、はりま勝原駅とも、地域の人たちの熱意に支えられ、守られています。私たちグループとしても、無人駅の整備・整頓と安全・安心への対策を地域の人たちと一緒に考えていきたいと思っています。

十二回の引越し

朝日新聞あいあいAー編集室

野中 寛幸

会社勤め三十数年。数え切れないくらいの転勤をした。このうち引越しを伴うものが十三回。住んだのは、姫路、たつの、福井、京田辺、箕面、吹田、神戸市など十カ所。

中でも二十代後半から四年余りいた福井は印象深い。大雪である。一晩に何十センチと積もる。屋外駐車場の車がすっぽり隠れていたこともあった。めったに雪の降らない九州で生まれ育った身には全てが新鮮。上達はしなかったが、スキーもここで覚えた。雪道で車のスピードを出し過ぎ、スリップして「あわや」という経験もした。

三人の子どもは全員、幼稚園を二つずつ。とくに長男は小学校を四校経験した。最初の転校では少しいじめられたようだ。でも、なんとか切り抜け、三校目では地区の少年野球チームに加わるなど溶け込んでいた。転校の「要領」を覚えたらしい。

高松と徳島。四国にも二回勤務した。ここでは八十八カ所巡りと出会った。札所が寺であることさえ知らなかったものが、印刷物を見ながらでも般若心経を読むようになった。車でだが、徳島県の二十三カ所は全部、香川県も何カ所か回った。「毎日が日曜日」になったら、徳島の歩き遍路に挑戦しようと考えている。

ふれあい喫茶「フレンズ」がオープンしました

置塩地区にふれあい喫茶を

ふれあい交流の場夢サロン開催グループ

私たちは、ひろげようつながりの輪を合言葉に、ふれあい喫茶・サロンの訪問や三世代交流の場を開催してきました。その中で、夢前町置塩地区でふれあい喫茶を体験したいという声をお聞きしましたので、昨年十月、夢サロングループメンバーが置塩地区でふれあい喫茶を始めました。

そして今年一月頃、参加いただいた方から「自分たちで喫茶をやってみよう。でもできるかしら」と声があがりました。当グループにとって、こんな嬉しいことはありません。「お手伝いしますから、がんばってふれあい喫茶を立ち上げましょう」と...

それから一緒に活動していただき、五月には堅田紀子さんをリーダーに、置塩地区でふれあい喫茶「フレンズさくら」が始まりました。私たちも二〜三回見学させていただきましたが、その喫茶の和やかな雰囲気は、地域の方の運営でこそできる温かいものでした。スタッフの皆さまのチームワークと情熱で、この地域につながるの輪が広がって行くことでしょう。



ふれあい喫茶に誘われて

フレンズさくら代表 堅田 紀子

「百円でコーヒーが飲めるから行く」。昨年の十月、友人に誘われて出かけました。スタッフの皆さんの素敵な笑顔と雰囲気は癒され、何度か参加しているうちに、自分たちの地元で新たに立ち上げようということになりました。

今年の三月、急遽仲間（五人）を集め、日時・場所の交渉、他のふれあい喫茶の見学、メニューの検討をしました。そして、五月二十四日に第一回のふれあい喫茶「フレンズさくら」をオープンさせました。当日は友人二人が津軽三味線を演奏。

みんなの夢会議 in 但馬



10月19日、県内各地からの参加者が「さんとう緑風ホール（朝来市）」に集まり、夢会議が開かれた。中播磨からも17名が参加。今回は「みんなで兵庫の‘わ’をつくる」がテーマで、4つの分科会で意見を交換した。その後、県立大学の加藤恵正教授のコーディネートにより、交流提案シート「私(たち)は〇〇〇というような人(グループ)と連携したい。そして、〇〇〇のようなことをしたい」を基に全体での意見交換があった。

最後に井戸知事から、社会全体も激しく動いているが、それに負けない地域づくりをしていきたいと思っているので、よろしくお願ひしたいとのコメントがあった。



第二回目（六月二日）は、季節の野菜を使ってスープを作ったり、地域の地域包括支援センターの職員の方に「介護保険」等のお話をいただいたりしました。第三回目（七月十六日）は、いつものメニュー+茹でトウモロコシ+冷茶のサービス。
百円硬貨一枚でどれだけのことができるか、知恵を出し合って頑張ります。

イベント情報・参加者募集!

わくわく陸上競技大会

障害を持つ子どもたちが姫路陸上競技場に集まり、ボランティアさんとリレーなどで楽しめます。本格的な競技場のトラックを車いすで走ったり、子どもたちのために工夫された種目で競い合ったりして、スポーツの秋の半日を楽しく過ごしませんか。障害を持つ小・中・高生、ボランティアさんの参加をお待ちしています。

(日 時) 11月15日(土) 13:00~16:00
 (場 所) 姫路市立陸上競技場(姫路市中地377-1)
 (参加費) 100円
 (主 催) わくわくサタデー実行委員会(姫路市立書写養護学校内)
 (連絡先) TEL:079-266-0028 FAX:079-266-9506
 E-mail:wakuwakuhirobaip@yahoo.co.jp
 HP「わくわく広場」:<http://www1.winknet.ne.jp/~moemoe/>

あいめっせフェスティバル 2008 ようこそ! 絵本の世界へ

今年も、大型絵本・ペープサート・馬頭琴コンサートなど楽しい絵本の世界をお届けします。皆さん、おいで下さい。お待ちしております。

(日 時) 11月16日(日) 11:00~12:00
 (場 所) あいめっせホール(イーグレひめじ3階)
 (主 催) NPO 法人おはなしくれよん
 (共 催) 絵本読み聞かせ「ぐるーぶ・はこべ」
 姫路こども劇場
 (連絡先) TEL:090-1394-8201
 ※申し込み不要 フェスティバル2008は11月15日より開催

お父さんとあそぼう!

日曜日にお父さんと一緒に体操や工作をしてあそびましょう。
 (日 時) 11月16日(日) 10:00~12:00
 (場 所) 姫路市立安室幼稚園(姫路市田寺8丁目7番6号)
 ※駐車場はありません
 (参加費) 無料
 (内 容) 県立こどもの館「まちの子育て広場」体験活動指導委員から遊びの指導を受けながら、一緒に遊びます。
 (主 催) 「親子ふれあい教室」
 (連絡先) TEL:079-297-7186 (主任児童委員 花田明美)

「姫路食博 2008」

毎年恒例の播磨うまいもん祭りが、新しく生まれ変わります。播磨のご当地グルメ、地産品、食品が大集合! 姫路おでん横丁、全国菓子博受賞のご当地菓子の販売、他。 ※入場無料

(日 時) 11月22日(土) ~24日(月・休日)
 (場 所) 大手前公園
 (主 催) 姫路食文化協会
 (連絡先) TEL:079-224-8803(事務局 コムサロン21内)
 E-mail:info@com21.or.jp

天台大師報恩法要と書写の大根焚き

野菜や花のバザー、からくた市も開きます。どなたでも参加可能です。
 (日 時) 11月23日(日) 9:00~16:00(法要14:00~)
 (場 所) 阿彌陀寺(姫路市書写西坂本) 神姫バス「西坂」から北5分
 (参加費) 拝観無料、大根焚き600円、大根膳1700円
 (連絡先) TEL:079-266-3376(阿彌陀寺事務所)
 ※大根膳は100膳限り、予約可能(13時までにお越しください)

2月2日夫婦感謝ウィーク

毎年2月2日をさむ1週間は、夫婦・カップルのおもてなしウィーク。感謝パーティー、男女の出会いイベント、ボウリング大会、寄席など、各地でいろいろなカップリングイベントが開催されます。特に2月2日は、11時から高砂神社で祈願祭も予定。詳しくはHPをご覧ください。

(日 時) 平成21年1月31日(土)~2月8日(日)
 (場 所) 姫路市・高砂市他、各地
 (連絡先) 2月2日夫婦感謝の日実行委員会
 TEL:079-224-8803(事務局 コムサロン21内)
 E-mail:info@com21.or.jp HP:<http://www.2-2fufu.jp/>

サークルさえずり朗読会

毎月いろいろなテーマに挑戦しています。どうぞお気軽にお越し下さい。
 (日 時) 毎月第4土曜日13:30~15:00(12月はお休み)
 (場 所) 城内図書館2階 中会議室
 (主 催) サークルさえずり
 (連絡先) TEL:079-289-4887(木曜日のみ)

銀の馬車道リレーイベント 神河町 銀の馬車道ウォーク

(日 時) ①11月4日(火)、②11月11日(火)、③11月17日(月)、④11月25日(火)
 JR生野駅から新野駅まで周辺施設を巡ります。
 (連絡先) 神河町観光協会 TEL:0790-32-2316

銀の馬車道 ふくさき産業祭

(日 時) 11月2日(日)
 (場 所) 福崎町商工会館とエルデホール周辺
 (内 容) 銀の馬車道観光馬車 乗車体験、特産品販売等
 (連絡先) 福崎町商工会 TEL:0790-22-0558

銀の馬車道を一望する 谷しろやまの杜ハイキング

(日 時) 11月24日(月・休日)
 (場 所) 市川町谷
 (内 容) クイズラリーや銀の馬車道のしおりづくり等
 (連絡先) 市川町観光協会 TEL:0790-26-1010

香寺町 農業・産業祭

(日 時) 11月30日(日)
 (場 所) JR 香呂駅西側
 (内 容) 物産広場・ちびっこ広場や銀の馬車道特産品販売等
 (連絡先) 香寺町商工会 TEL:079-232-0570

情報誌「さすろ」意見・感想などの連絡先
 中播磨地域ビジョン委員会事務局
 〒670-0947 姫路市北条1-98
 兵庫県中播磨県民局 地域ビジョン課
 電話(079)281-9758
 FAX(079)285-1102
 メール: r.kharimak@pref.hyogo.jp

情報誌「さすろ」意見・感想などの連絡先

編集後記
 郷土の祭りが各地区で繰り広げられ心穏やかな季節が終わりました。今号は交流をテーマにしています。人が交わる国際交流や障害者との交流、農村との交流等々です。
 過日、日系企業の研修旅行でベトナム・カンボジアに行きました。日本の人件費との格差が二十倍にも及び、バブル後最安値の株、日本経済の成り立ちを考えました。アンコールトム・アンコールワットは、歴史と自然の交流です。科学の進歩であっても勝つことができないものを見たような気がします。また、ベトナム・カンボジアとも、日本に好意を示してくれていることに国際交流の芽を感じ取りました。

県民局からのお知らせ

地崩れ・風水害・地震等の自然災害に備え今すぐご加入を!!

兵庫県住宅共済制度 「フェニックス共済」

阪神淡路大震災で学んだ教訓「助け合いの大切さ」を後世に活かし、次なる災害に備える相互扶助の制度です。

- クレジットカードによるお支払いも可能です。
- 複数年一括支払による割引があります。
- インターネットでもお申し込みできます。

負担金	年額5,000円/戸	自然災害の発生	給付金	給付対象	給付額
	加入初年度は月額500円/戸				
再建等給付金	半壊以上の被害で再建・購入	自然災害の発生	補修給付金	全壊で補修	200万
				大規模半壊で補修	100万
				半壊で補修	50万
居住確保給付金	半壊以上の被害で、再建・購入・補修をしない場合	自然災害の発生	居住確保給付金	10万	

[加入申込書配布場所]
 県民局、市役所、町役場、郵便局、金融機関、主要駅ターミナルなど。
 中播磨県民局防災課
 TEL:079-281-9062 <http://web.pref.hyogo.jp/wd34/phoenixkyosai.html>